研究班番号【 42 】

村上春樹を読む～比喩の観点から～

国語班：浦上 水結

Abstract

The purpose of this study is to deepen our understanding of Haruki Murakami's novels. To that end, I investigated his metaphors. The experiment shows that his metaphors that use "cloud" express feelings of characters.

要約

本研究では、現代小説家である村上春樹の特徴を捉え、村上春樹の小説の内容理解を深めることを目的とした。小説内の比喩表現に注目し、調査した結果、村上春樹は「雲」を使った比喩表現で登場人物のネガティブな心情を表現していることが分かった。

1. はじめに

村上春樹は比喩表現が特徴的な作家として知られている。彼の小説を読んでいると、「雲」を使った比喩表現が多用されていることに気がついた。これらの比喩の特徴を掴めば、小説の内容理解につながるのではないかと思い、調査することにした。澤田（2003）は、村上春樹の比喩はいくつかの種類に分類でき、それぞれに特定のイメージが付加されていると述べている。このことから、これらの比喩も同様に何らかのイメージを持って使われているのではないかと考えた。また、村上の小説には天候描写も多いことに気づき、「雲」を使った比喩と何か関係があるかもしれないと思い、それらも調査することにした。

2. 研究手法

以下の手順に従って研究を進めた。

①村上春樹の小説『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』を読み、「雲」を使った比喩表現と天候の描写を抜き出した。

②それぞれの比喩表現が表す状況・心情を小説から読み取り、比較した。

③比喩表現と天候の描写が対応しているか調べた。

3. 結果

≪「雲」を使った比喩表現について≫

文章中に出てくる「雲」を使った比喩表現は、すべてネガティブな心情を表していた。

（下表：小説内の比喩表現と登場人物の状況・心情の一覧）

	小説内の比喩表現	登場人物の状況・心情
①	そこに見えるのは堅い雲となって渦巻く虚無であり、…。	自殺することについて考え続けている
②	そういう可能性は常に彼らの頭上に小さい傘雲としてかかっていた。	グループのまとまりが崩れることを危惧している心情
③	強い西風が厚い雲を空から吹き払うみたいに。	死への憧憬が嫉妬という感情に相殺されたことの比喩
④	小さな堅い雲の塊を知らないうちに吸い込んでしまったみたいだ。	思い出したくないことを思い出してしまった

①では、自殺について考え続ける主人公の暗い気持ちを「堅い雲」と表現していた。
②では、主人公がいつも一緒にいるグループのまとまりが、あるきっかけでばらばらになってしまうかもしれない、ということを不安に思う気持ちを「小さい傘雲」と表現していた。
③では、主人公の死への憧れの気持ちを「厚い雲」、ある人物に対しての嫉妬という感情を「強い西風」と表現することによって、死への憧憬が嫉妬によって打ち消された、ということを比喩していた。
④では、思い出したくないことを思い出してしまい、どこか胸に突っかかりができたような主人公の心情を「堅い雲」を吸い込んでしまった、と表現していた。

≪比喩表現と天候描写との結びつきについて≫
今回読んだ小説では、「雲」を使った比喩表現と同じ場面に天候描写があるところは見つからなかった。

4. 考察

≪「雲」を使った比喩表現について≫
今回読んだ小説内で使われていた「雲」を使った比喩表現は、すべて主人公のネガティブな心情を表していた。澤田(2003)は、「自然」のモチーフは「抗いがたい現実」、例えば年を取ることなどのイメージが付加されていると述べていた。この結果に基づくと、「雲」もそのイメージ群に帰着する可能性があったが、結果として心情を表していると考えられるので、また別のイメージ群であるといえる。澤田(2003)の先行研究では、登場人物の特定の心情を表しているモチーフの分類がなかったので、「雲」は新しいイメージ群になると考えられる。しかし、小説の天候描写として、天気が悪くなる、つまり曇ったり雨が降り出したりすることで、主人公のネガティブな心情を暗示しているのは、太宰治の『走れメロス』や、新海誠の『君の名は。』などの作品でも見受けられ、大きく特徴があるとは言えないので、村上春樹の小説の特徴としては薄いと結論づけた。このような結果になった理由として、調査した資料の少なさが挙げられるため、より多くの資料を調査することで新たな法則性が見えてくると考えられる。

≪比喩表現と天候描写との結びつきについて≫
今回読んだ小説内では同じ場面で使われているところが見つからなかった。小説全体を通して、「空は厚い雲に覆われ」などの天候描写があれば、主人公のネガティブな心情も大きくなっている、のように結びつけることは可能だが、一般的な天候描写が表現している心情との差があまりないので、今回は結びつきが「弱い」とした。

5. 結論

村上春樹の小説に使われている「雲」を使った比喩表現について、特定のイメージが付加されて使われている、またそれらが天候描写と結びつくことで比喩の効果を高めている、という仮説のもと、調査を進めた。結果、調査した小説内では「雲」を使った比喩表現は主人公のネガティブな心情を表現しており、天候描写との結びつきは弱いという事がわかった。また、今回は調査を完了することができなかったが、村上春樹の小説、『海辺のカフカ』、『1Q84』でも「雲」を使った比喩表現があり、特に『海辺のカフカ』では「やさしい雲」という、ネガティブな心情を表現しているとは考えづらい比喩表現が使われていることが判明している。したがって、他の村上春樹の小説でも「雲」を使った比喩表現が使われているのか、またそれらが今回の結果とは違う心情、例えば主人公の明るい気持ちを表現するために使われているのかを調査することを、今後の課題とする。

6.参考文献ならびに参考Webページ

澤田真紀(2003).「村上春樹の比喩表現の研究」.日本文學,99,67-82.
村上春樹(2013).『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』.文藝春秋
村上春樹(2002).『海辺のカフカ』.新潮社
村上春樹(2009).『1Q84』.新潮社

太宰治(1954).『走れメロス』.新潮社
新海誠(2016).『君の名は。』.角川文庫